

令和6年度 国語科研究部 第2回研修会 1ブロック報告 (1、2部会)

○1 学期実践交流

「児童生徒の『学びの調整力』を単元の中で、どのように育成していくのか」について、1学期の間に実践し、その実践を学年ごとのグループに分かれ交流した。同じ単元で授業を行っても、先生によって指導のタイミングや方法が異なり、「学びの調整力」の育成について理解を深めることができた。全体共有の場では、見通しをもたせたり、グループで活動を設定し改善や再検討を行わせたりする中で、「学びの調整力」を育成すると効果的であると確認できた。また、発達段階による個人差が大きく、一人一人に合わせた手立てや支援の難しさを感じた。今後の研修の課題としていきたい。

○研究授業構想

10月30日に行われる研究授業について1ブロックの先生方で検討を行った。①単元構想について、②学びの調整について、③授業者の悩みの3つの視点で協議した。単元構想については、資料の選択を事前に行っておくことで、付けたい資質・能力を育成する時間を確保できるという意見が出た。また、学びの調整については、社会科や総合的な活動の時間と関連させる、オクリンクなどのICTを活用し効果的なグループ編成をし、意見交流を行うという意見が出た。そうすることで、級友と意味ある対話が生まれ、自分の意見を修正していく過程で、学びの調整力が育成されていくようになることを授業者と確認することができた。

令和6年度 国語科研究部 第2回研修会 2ブロック報告 (3、4部会)

○1 学期実践報告

R6年度国語科研究テーマである「『言葉の力』を育てる魅力的な単元の創造」に迫るための授業づくりとして、「児童生徒の『学びの調整力』を単元の中で、どのように育成していくのか」について、1学期の実践を持ち寄り、グループごとに報告をしながら交流を深めた。同じ学年同士でグループを組んではあるものの、やはりそれぞれの先生方の単元構想や指導方法が異なる場所があった。「単元に対してどういうねらいを持っていたのか。」「そういうやり方があったのか。自分もやってみたい。」という声がグループ協議の中で出てきて、とても有意義な時間になった。しかし、「学びの調整力」に関しては、やはり生徒の実態をきちんと踏まえることが大事なので、一人一人の生徒の実態をしっかりと見極めなければならないという課題も再認識できた。

○第3回公開授業 指導案検討

10月30日に行われる研究授業について、検討会を行った。①単元の構想について、②単元における学びの調整について、③授業を組むに当たって悩んでいることや相談したいことについて、話し合った。「和歌に対して歌物語を作ろう」という課題に対して、①教科書にある和歌の精選をどうするか、②文字だけではなく絵で描かせてもいいのではないか、という意見が出た。学びの調整について、自分の根拠や解釈をグループの中で説明していく、オクリンクを用いて思考の視覚化をタイムリーに確認することで調整力が育成されることを授業者と確認した。